別記二

首切賃下に我慢が出来ない　全市の兄弟と手を握らう

保健局五千の従業員諸君に訴ふ

一、見たか、聞いたか、市電局の従業員の合理化策を、三千四百八十名の首を切り、加めて実質の減給首又保険局の職夫が七八名も職を奪はれてゐるのだ、我々は既に市電交通労働組合、市電協同会、市従業員組合の三団体は対市減給反対斗争同盟を結んで、各局課の従業員を問はず、一かたまりになり、反動当局東京市に対抗し今や市電を初め、水道局員を統制されば ストライキで勝つまで断乎最後の決意を以って戦ってゐる。

保健局五千の兄弟諸君！

だが吾々は、一つのかたまりも作らず、仲間が離れ離れになってゐるために最近未曽有な労働につき保はれてゐる一それはかりでない これを見込んで、奴等は失業するよりは減給の方がいゝだらうと涙判断に検診をやらうとしてゐる。すでに三百何名も首切られ、東京市が保険局に限って何もしないと言ふ、そんなやうな事があるか、船夫が七八名も減首されてゐるのだ。

保険局の俺達五千の兄弟諸君！

見ろ吾々は、賃下をやる大きな力を以ってゐる、昭和二年の争議であの当局を覆得したことを忘れないだらう。

そうだ、他局課の従業員が全勝を期して戦ってゐる時 吾々保険局従業員も即刻対市減首反対斗争同盟に参加、対市の従業員とかたく手を結んで今日から戦ふのだ。

各局単位で会議を開いて直ちに相談しよう。

二、それでも吾々の要求は一割減給だぞ

◇減首絶対反対！、◇首切一割減給に反対だ！、

◇賃時、果然を増やせ！、◇対市減首反対斗争同盟に参加せよ！

日本橋市生　従業員

東京市減首反対斗争同盟

警秘第一六二八七號

昭和五年四月二十一日

警視総監　丸山鶴吉

内務大臣　安達謙蔵殿

鉄道大臣　江木翼殿

逓信大臣　小泉又次郎殿

宮内大臣　一木喜徳郎殿

社会局長官殿

東京地方裁判所検事正殿

東京警備司令官殿

各庁府県長官殿

東京市関係三労働団体ノ賃金一割減給解雇其他ノ反対運動ニ関スル件　第七報（十九日正午迄ノ情勢）